

【参考文献】

- 松本良夫, 1978, 「最近の東京における少年非行の生態学的構造」『犯罪社会学研究』3 : 18-39.
- 清永賢二・辻義之, 1987, 「日本の都市犯罪の現状」『警察学論集』40(2) 立花書房 : 100-114.
- 森田洋司, 1991, 「犯罪社会学と安全概念」『犯罪社会学研究』16 : 56-74.
- 小林寿一, 2003, 「地域社会を基盤とする犯罪統制の新動向 : はじめに」『犯罪社会学研究』28 : 4-6.
- 守山正, 2002, 「環境犯罪学の倫理」所一彦編『犯罪の被害とその修復 西村春夫先生古稀祝賀』成文堂 : 197-216.
- 浜井浩一 (編/著), 2006『犯罪統計入門-犯罪を科学する方法』日本評論社.
- 山岸俊男, 2008, 『日本の「安心」はなぜ、消えたのか 社会心理学から見た現代日本の問題点』集英社インターナショナル.
- 竹中祐二, 2008, 「環境犯罪学における理論展開の検討」『福祉社会研究』(9) : 53-71.
- 竹中祐二, 2009, 「犯罪と地域社会の関係についての理論的考察--システミックモデルにもとづくソーシャル・キャピタル論の検討を通して」『現代の社会病理』(24) : 45-63.
- 竹中祐二, 2010, 「条例制定動向からみる『安全・安心まちづくり』活動の展開」『福祉社会研究』(11) : 69-86.
- 津島昌寛＝浜井浩一, 2011, 「犯罪被害などに関する調査」『中央調査報』650号:1-5.
<https://www.crs.or.jp/backno/No650/6501.htm> (中央調査社)
- 伊豫谷登士翁・斎藤純一・吉原直樹, 2013, 『コミュニティを再考する』, 平凡社新書.
- 竹中祐二, 2014, 「現代日本の地域社会における犯罪予防についての社会学的考察」京都府立大学博士学位論文.
- 竹中祐二, 2020, 「地域社会と犯罪」石塚伸一編著『新時代の犯罪学 共生の時代における合理的政治政策を求めて』日本評論社 : 205-223.
- 島田貴仁, 2021, 『犯罪予防の社会心理学:被害リスクの分析とフィールド実験による介入』ナカニシヤ出版.

[外国語文献]

- Cohen, L. E. and Felson, M., 1979, "Social Change and Crime Rate : A Routine Activity Approach", in American Sociological Review, 44(4) : 588-608.
- Beck, U., 1986, "Risikogesellschaft" Suhrkamp Verlag. (=東廉・伊藤美登里訳, 1998, 『危険社会 新しい近代への道』法政大学出版局.)
- Young, J., 1999, "The Exclusive Society" SAGE Publications.
- Cornish, D. B. and Clarke, R. V., 2003, "A Reply to Wortley's Criticize of Situational Crime Prevention" Smith, M. J. and Cornish, D. B(eds.) Crime Prevention Studies, 16 : 41-96.

- Welsh, B. C., & Farrington, D. P., 2008, “Effects of closed circuit television surveillance on crime” Campbell systematic reviews, 4(1) : 1-73. (=竹中祐二 (訳) , 2012, 「CCTV による監視の防犯効果」『キャンベル共同計画 介入・政策評価系統的レビュー』第6号, 龍谷大学矯正・保護総合センター)
<https://crimrc.ryukoku.ac.jp/campbell/library/crimejustice.html> (龍谷大学 犯罪学研究センター)
- Eric L. Piza, Brandon C. Welsh, David P. Farrington, Amanda L. Thomas, 2019, “CCTV surveillance for crime prevention A 40-year systematic review with meta-analysis”, Criminology & Public Policy. ;18:135-159.